




ようかい  
妖怪のこころ

~寝取られフミ香ちゃん~



それじゃ、  
いってくるよ

いってらっしゃい  
気をつけてね。

ケイ太の転勤で、さくらんぼニュータウンへと引っ越して来たフミ香は、いつもと同じ幸せな朝を送っていた。

ケイ太を送り出したフミ香は、  
引越しの荷物の整理をするため、物置となっている部屋へと向かった。



なつかしいなあ

あっ！  
これ…ケイ太君の  
妖怪コイン

ダンボールの奥からなつかしい物を見つけたフミ香。

整理の手を止め子供の頃の冒険をなつかしく思い出していると、誰かが尋ねて来たことを知らせるチャイムが鳴った。




やっぱり、  
フミ香ちゃんだ  
久しぶり〜

もしかして…  
クマ雄君？

高校の頃から疎遠になり結婚式にも出席しなかったクマ雄と、  
フミ香は数年ぶりに再会した。





フミ香ちゃんは、  
これが何か知っ  
てるだろ？

えっ！  
…それは…  
妖怪クロック！

ど…どうして  
クマ雄君が…  
あっ！

思い出話に華を咲かせていると、  
突然クマ雄が取り出した妖怪クロックを、フミ香に見せる。

驚きながらもフミ香は、ケイ太の妖怪クロックが高校の頃に見当たらなくなったことを  
思い出していた。



かっ…  
痒いっ！

ギョッ

ミがかいかい…って妖怪  
覚えてるだろ？

全身だとかわいそう  
だからさ、一部だけ  
痒くするように命令  
してあげたんだぜ





スゲー、  
気持ちいいだろ

ひいあああ...  
だ...駄目えーっ!

こっちは、オレが  
掻いてやるぜ

モヤシ

ガッ

ゲッ





あああああ...  
で...でもお...

はあ...  
はあ...

もう一箇所は、  
フミ香ちゃんが  
自分で掻きなよ  
ここよりもっと  
気持ちイイと思  
っうぜ

クリン  
クリン  
クリン  
クリン  
クリン

キラキラ

妖怪"かゆかゆ"がもたらす激しい痒みを我慢して動けないフミ香。

後ろへと回り込んだクマ雄が、フミ香の服の上から乳首の周りを搔き始め、痒みが和らぐ感覚が快感となって広がっていく。

乳首の痒みが和らぐのと反比例し激しさを増していく股間の痒み。

恥ずかしい箇所を人前で搔くことに躊躇し我慢するフミ香だったが、ついに耐えられなくなり股間へと手を伸ばした。



そうそう、  
我慢は良くないぜ  
フミ香ちゃん

はぁん

あッ♡

ゲリッ  
ゲリッ  
ゲリッ

くちゅっ  
くちゅっ





指だと、奥の  
痒いところま  
で届かないだ  
ろ？

えええ...

これを使えば、  
奥まで搔けて  
もっと気持ち  
イイぜ

あああ...  
い...嫌あ...  
そんなの...  
...いらない!

くちゅん  
くちゅん

遠慮しなくて  
イイぜ、そら！

む…無理い！  
は、入らない！

フミ香ちゃんの  
オマンコなら、  
大丈夫さ

や…やめて  
ク…クマ雄くん  
さ、裂けちゃう！

ダメ！！

グ  
グ  
グ  
グ  
グ





な？  
大丈夫だったろ  
ズッポリ啜え込  
んでいるぜ

はあ

は……入ってるう……  
わ……私の中に……  
あああ……  
こんな大きな……  
入って……るう……





初めてのバイブに恐怖し震えながらも、裂けることなくズブズブと挿入され啜え込む自分のアソコに戸惑うフミ香。

フミ香のオマンコは、妖怪"キモメン先生"によって気付かないうちに極太バイブを啜え込めるオマンコへと改造されていた。



ひいいい!  
駄目えええつ!

気持ちいいだろ?  
先ずは、オレが、  
タツプリと掻い  
てやるよ

ウツン

しおじ

ウツン

ウツン

4270  
4270  
4270  
4270

そうそう、  
自分で痒い所を  
グリグリしなよ

あーん!!

ウーッ

ひいひい…  
ひい…はああ…  
ああ…んん…

ふえ…  
あああ…くうう

クククツ

ウーッ

ウーッ

ウーッ

ウーッ

ウーッ

あーん!!  
あーん!!  
あーん!!  
あーん!!





イキそうなん  
だろ？

うはま

ウイン

はあ...  
はあ...

思いっきり、  
イキなよ

...ふああ...  
そ、そんなあ...  
わ...私い...!!

くうう...  
だ...駄目え...  
ああ...くっ...  
...も...もう...

ウイン

ウイン

ウイン

ウイン





ん...っ...  
はああ...んっ!!

ん...はあああ!  
だ...駄目え!  
見ないでえ!

ああああ

ウァン

ウァン

ウァン

ウァン

ウァン

ウァン

びゅっ

びゅっ

びゅっ

ハァッ

ハァッ

ハァッ

ハァッ

ハァッ

いつしかバイブを自分で持たされ、オナニーをする形になっていたフミ香。

ケイ太とのごく普通のSEXしか知らないフミ香にとって、初めて経験する強烈な刺激と快感を我慢することができず、クマ雄の前で絶頂してしまう。

激しい絶頂感で朦朧とするフミ香のオマンコへ、“キモメン先生”に改造させたケイ太のチンポよりはるかに巨大なクマ雄のチンポが挿入されていった。



そらそら、  
気持ちイイだろ  
フミ香ちゃん

や……  
やめてええ！  
はああ……ああ  
ひい……んん  
……っ……

ム  
ム  
ム  
ム

シュー  
シュー  
シュー  
シュー  
シュー  
シュー  
シュー  
シュー



ひいひい！  
もう…やめ…  
ああ…んんっ！

イってるだろ？  
フミ香ちゃん

ち…違うう…  
そんなこと…ああ  
ああ…んはあ…  
イ…イってるう…  
ああ…ひい！  
お…犯されてるの  
にい…はああ…  
イ…てるう…

マダマダだぜ  
オレがイクまで、  
何度でもイかせて  
やるぜ





ひっ！  
もう…やめて…  
…ああ…

わ…私…  
おかしく…ああ  
なっっちゃうう…

そうだな  
タップリ射精し  
て、終わりにし  
てやるよ

オレのザーメン  
をオマンコで味  
わってイキな

ビクッ

ビクッ

えっ！  
ま…待ってえ！  
中は…ひい…  
だ…駄目えー!!!  
ひいああああ!!

あ…あ…あ…  
あ…あ…あ…  
あ…あ…あ…  
あ…あ…あ…

ビクッ





ひいああああ！  
中にいっつ！

ああああ…

出てるう…

い…いっぱい…

出てるう！！

あっ…ああああ  
な…何？

ど…どうしてえ…

イ…イ…ク…

んはああ…イクウ

わ…私…

イ…いつちやう！！

んひいい！！

ビクン♡

ビクン♡

ビクン♡

ビクン♡

おひいひい  
おひいひい

フミ香は、クマ雄の巨大なチンポに容赦なく犯され続け、  
繰り返し何度も何度も絶頂させられた後、大量のザーメンをオマンコの中に吐き出されていく。

中出しされた絶望感と同時にオマンコから今までに経験したことの無い絶頂感が広がっていく。

戸惑う間もなく、ケイ太とのSEXでは知るこが無かった中出し絶頂の快感を、  
クマ雄のチンポによって初めて経験させられ身体に刻み込まれていった。

似合うぜ、  
フミ香ちゃん

太るのが嫌いな  
フミ香ちゃんのため  
に、準備してやっ  
たんだけ

…こ、こんな  
恥ずかしい…  
服装…

激しい絶頂の余韻から正気を取り戻したフミ香は、  
クマ雄に無理矢理エクササイズ用の服装へと着がえさせられていた。



TVの前に立  
ちなよ

あああ…  
クマ雄君…。  
お願い…もう  
…

さあ、  
始めようぜ

壁際へ動かしたソファーに座るクマ雄の合図で、フミ香に取り憑いた“マネマネン”が再生を始めたエクササイズの映像に合わせて動き始める。



くうう...  
ん... ん... ん...

はあ...

はあ...

あぁあ...  
恥ずかしい...

いいぜ、  
フミ香ちゃん





……えっ!  
な、何?

あああ……  
ど……どうして?

そ、  
そんなあ!

ヤダ……

ジーン  
ジーン

ジュフ…

ジュフ…

ポク…

ポク…

その服、  
胸と股間に水分  
を吸収すると透  
ける生地を使っ  
てるんだぜ

ニヤニヤ





恥ずかしい姿でエクササイズをさせられるフミ香。

クマ雄に何度も犯され、初めての…そして凄まじい快感を経験させられたフミ香の身体は、クマ雄のいやらしい視線を感じるだけで身体が火照り、乳首を尖らせ、股間からいやらしい汁を溢れさせるようになっていた。

あつ！  
この姿勢…  
駄目えーっ！

あああ…  
どうしてえ？  
嫌ああ…  
見ないでえ…

むいっ

あッ

やっぱり、  
もうグチヨグチヨ  
だな  
バッチリ透けてる  
のは、汗のせいじ  
やないだろ？



トン

ト



はあはあ

な、何？

ああああ…

アソコがあ…

ジンジンしてえ！

ク…クマ雄君…

何を…ひいひい…

したのお…

ああああ…くう…

ミモメン先生に  
フミ香ちゃんが、  
エクササイズでも  
つとイイ気持ちに  
なれるように改造  
させたんだぜ



ああッ

はああッ

ああッ

ああッ

はああ…んん…  
だ…駄目え…  
元に…んんっ…  
もどしてえ…

ひい!

こんなに…早く  
動くと…ひい  
はああーっ!

ひい!  
刺激が…凄いい  
…このままじゃ  
わ…私…

クククッ

クククッ

クククッ

クククッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

クククッ

クククッ

クククッ

クククッ





ああああ  
ああああ

はあああ  
あああ…んんっ!  
イ…イってるう…  
ひいあああん  
…クマ雄君の前で  
またあ…  
イってる!!

なっ、  
イイ気持ちにな  
れただろ?  
フミ香ちゃん





フラフラだな  
フミ香ちゃん。  
落ちないように  
オレが支えてや  
るぜ

…ま…待って、  
クマ雄君

い  
ま  
は  
ハ  
ハ  
ハ

駄目駄目、  
さあ、始めるぜ

さ…さっき…  
いったばかりな  
のにい…

直接当たって刺  
激が強すぎ…  
くうう…ああ…



ひいあああん…  
そ…そんなに…  
…押し付けない  
でえ…んんっ…

んんあ  
ああ

押し付けないと  
フミ香ちゃんの  
Hな汁で滑って  
落ちてしまうだ  
ろ？

んっ…  
ひい…ん…





おお！  
フミ香ちゃんの  
大量のHな汁の  
せいで、透ける  
だけじゃなく破  
れてしまったぜ

んあッ

ち、違うう…  
私のせいじゃ…

ああ…  
クマ雄君が…っ  
押し付けるから  
…あああ…





でも、  
押し付けられる  
の、イヤじゃな  
いだろ？

ひいあああんっ  
…ああああ…

あほ♡

クマ雄君の…  
オチンチンがあ  
背中に当たって  
るう…  
わ…私を…犯し  
た…オチンチン  
……はんっ

次の上下運動  
が始まるぜ



ひい！  
犯されたオチン  
チンで、背中を  
擦られてえ…

恥ずかしいとこ  
ろ、むりやり刺  
激されてるのに  
い……

ふああ  
あ

わ…私…興奮し  
てるのお……

んはあ…んっ  
…Hな汁がああ…  
溢れてるうう…  
ふっ…あああん





そうそう、  
上手いぜ。  
ミナミマネンが  
憑いてなくても  
出来るぜ

…ああああ…  
…はあ…いい

オチンチン…  
擦れてるう!!  
ひいい…はああ  
感じちやうう…  
あああ…駄目な  
のにい…んんっ  
やめれないい…







ひっああん!!

おっと、  
ヌルヌルで滑っ  
て挿入しちゃまっ  
たぜ

ニジュッ

んんん♡



オチンチン挿入  
てるう!  
...挿入っただけで  
...ひいあああ...  
イ、イクウ...  
わ...私...  
イ...てるう!!

あ...は...あああ  
そ...そんなあ...  
.....

あほ

びくん  
びくん

ぐわ  
ぐわ  
ぐわ





あつ…あああ…  
…はぁい…  
腰…振りますう  
…んはぁん

ま、いいか  
このまま、続け  
ようぜ  
ほら、映像に合  
わせて腰を振り  
なよ

はぁん



エクササイズを模したみだらな行為に快感と絶頂を与え続けられたフミ香は、チンポを挿入されただけで絶頂してしまう。

絶頂と同時に快楽に理性を押さえ込まれたフミ香は、クマ雄のチンポを拒絶することなくエクササイズを続けていく。

エクササイズ  
気持ちイイだ  
ろ？

んあッ

んんん

んんん  
んんん

はぁいらい...

グキョ  
グキョ  
シッポム





そろそろ終わり  
だな  
汗と汁の出し過  
ぎで、脱水状態  
にならないよう  
に水分補給して  
やるぜ

へん

へん  
いあ  
あ

...ふん?

グキョ  
グキョ  
シッポム



タップリ  
射精してやるぜ

駄目なのに  
…んひいいい…  
気持ちイイイ  
日な水分補給  
してえ…  
イッてるうー  
ー…っ!

ドブツ

ビュッ!  
ビュルルル!!

んはあああ  
あああ

んはああ!!  
ま…またあ  
中にい…





こぼれた分は、  
こっちから取  
るんだぜ。  
運動後の水分  
は大事だから  
な。

あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...

...あ...あ...  
あ...あ...あ...



2度目の中出し絶頂。

クマ雄に言われるまま、口に運ばれたザーメンを舐め飲み込むフミ香。

初めて飲むザーメンすら美味しく感じるほど、フミ香はみだらな行為がもたらす快感に溺れていた。



あああ：  
クマ雄君……  
は、早く家に  
戻らせてえ……

家に戻って、  
オレのチンポ  
が欲しいのか？

ああ……

ドキ  
ドキ  
ドキ

ウグウグ  
ウグウグ  
ウグウグ

ドキ  
ドキ  
ドキ

ウグウグ

そんなこと……  
……  
……  
は……恥ずかし  
くて……あああ





興奮して…  
なっ

いん…

…ち、違うう  
そんな…こと  
…

もと、  
興奮しようぜ

ひいああん  
アソコが…  
疼くう…  
だ…駄目え  
…駄目え

どきどき  
どきどき  
どきどき

人とすれ違う  
たびに…んん  
…身体が…熱  
くなつて…  
んはあ

ワグワグ  
ワグワグ  
ワグワグ



あああ……  
本当に……  
気付かれない？

ミニミニンニを  
呼び出したか  
ら大丈夫だぜ

あひん

私……  
クマ雄くんの  
言うとおりに  
したら……  
さっきより、  
興奮してるう

でも、  
あまりHな声  
を出すと気付  
かれてしまう  
ぜ

……んはああん  
こ、こんな姿  
見られたらあ  
ダメエ……ん……

わ……私……  
おかしく……  
んはあん……  
なってるう！





ひいああ!

どうしたんだ?

やだあ...  
急に...トイレに...  
くう...

あああ...  
ト...トイレに...  
...んん...行き...  
たい...のお...

小便だろ  
トイレに行か  
なくても、  
ここで出来る  
だろ?

どきどき  
どきどき  
どきどき  
どきどき  
どきどき  
どきどき  
どきどき  
どきどき

わん  
わん  
わん

わん  
わん  
わん  
わん  
わん  
わん  
わん  
わん

わん  
わん  
わん  
わん  
わん  
わん



ふえ？  
……ここ……どこ？

ジミニンも  
いるし、そこ  
の柵の向こう  
でしょなよ

んあッ

で……  
でもお……

フミ香ちゃん  
なら、できる  
と思うぜ

こんなに  
人通りが多い  
ところで……

オシッコ……  
するのぉ……

……ああ……





あああん…  
人が…途切  
ない…  
んんんっ…

…んはああ…  
本当に…こ、  
…こんな所で  
…ああ…

あっ!!  
もう、駄目え  
ああああん…  
オシッコオ…  
出ちやうう!

こんな…  
立ったままで  
…ひいん…  
しちやうのお  
…

どきどき  
どきどき  
どきどき

はあ  
はあ  
どきどき  
どきどき  
どきどき

グググ

んん

んん





ん!?

止まらない  
のおお...  
いっばい...  
出て.....!!

アヒーツ!

はぁん

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

出てるう!  
オシッコオ:  
してるう!  
こんな...人前  
でえー  
んひいいい

イッポウ

!?



ああもう♡  
ダメ...♡  
んんん♡

気持ちヒイイ!  
んひひい!!  
んひひい!!

キム♡

んんん♡  
んんん♡  
んんん♡

んんん♡  
んんん♡

イク...イクツ  
ひひひい...  
...  
イツグウウウ  
ウウウウツ!



人前で放尿しながらの絶頂が、かすかに残っていた理性を完全に消し去る。

フミ香は、快楽を求めるメス豚へと墮ちていった。







すっかり、  
チンポ大好き  
になったな、  
フミ香ちゃん

いいー！  
チンポく  
ださい

はぁいいい…  
フミ香は、  
チンポ大好き  
ですう

はぁんあ  
んあ  
んあ

んんちゅうう  
美味ひい…  
んはぁん…  
ちゅばぁん…  
あぁん…

フクッ

フクッ

んん



カシャ

あッ あ♡

ビビビッ

写真にいつぱい...撮って...  
ください...  
んはあん

フミ香のHな  
顔を...身体を  
ドロドロ...  
オマンコを...

あはあ...ん、  
撮ってえ...

カシャ

カシャ

ムニョッ

ゴザッ  
ゴザッ

とろ〜...



フミ香の記念写真が済むと、クマ雄は今日初めての妖怪を呼び出していた。

そして、翌日。

ええ、  
新しい職場に  
も慣れてきた  
みたいですよ  
：はい：はい  
お昼頃ですね  
大丈夫ですよ、  
お母様


あっ…  
誰か来たみた  
い？  
ええ、  
すみません  
はい、お待ち  
しています

ピンポ～ン♪

ピンポ～ン♪







やっぱり、  
フミ香ちゃんだ。  
久しぶり。

もしかして…  
クマ雄君？

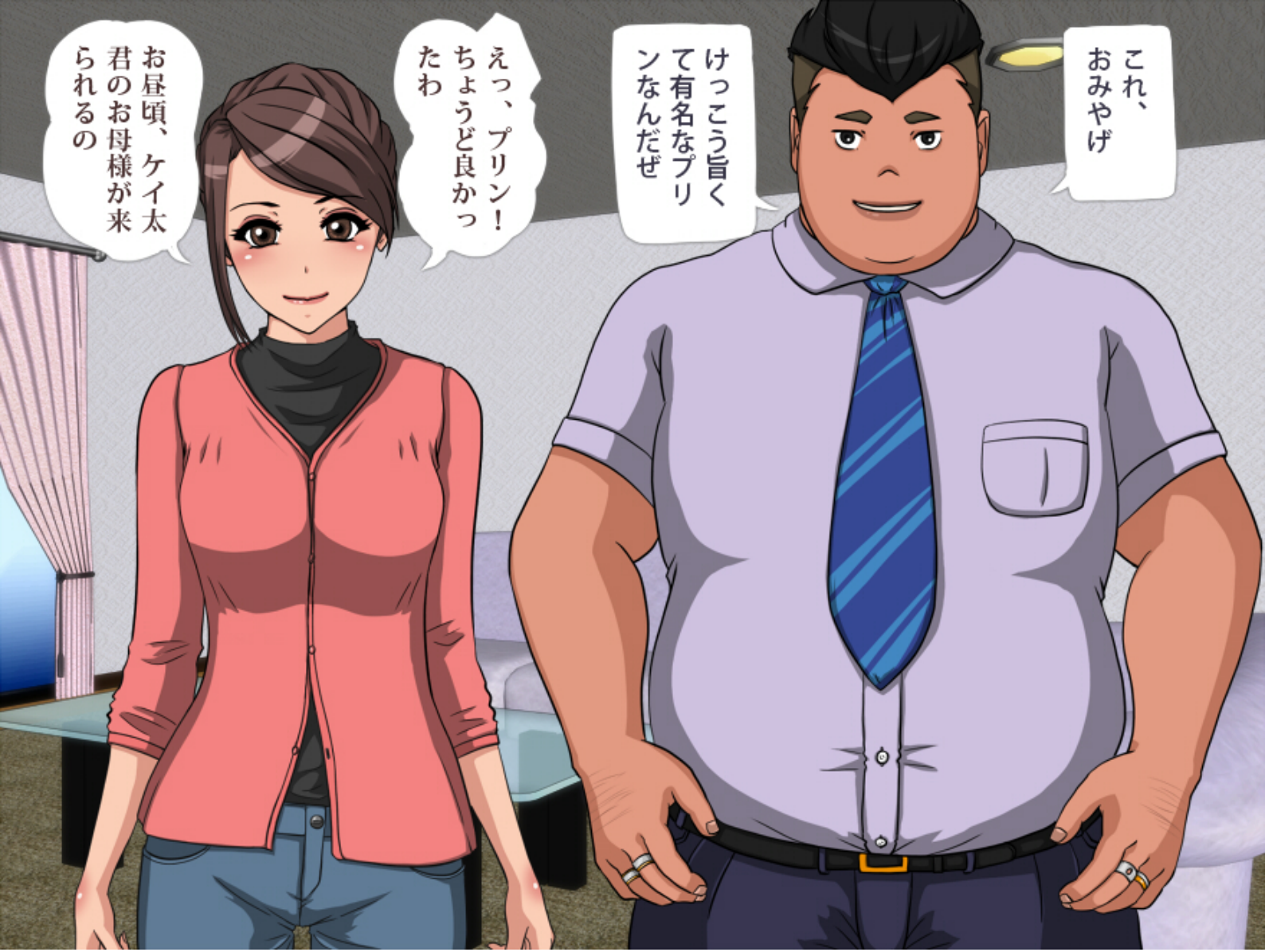
高校の頃から疎遠になり結婚式にも出席しなかったクマ雄が、お土産を持って尋ねて来た。  
数年ぶりのなつかしい再会に驚くフミ香。

これ、  
おみやげ

けっこう旨く  
て有名なプリ  
ンなんだぜ

えっ、プリン！  
ちようど良かつ  
たわ

お昼頃、ケイ太  
君のお母様が来  
られるの



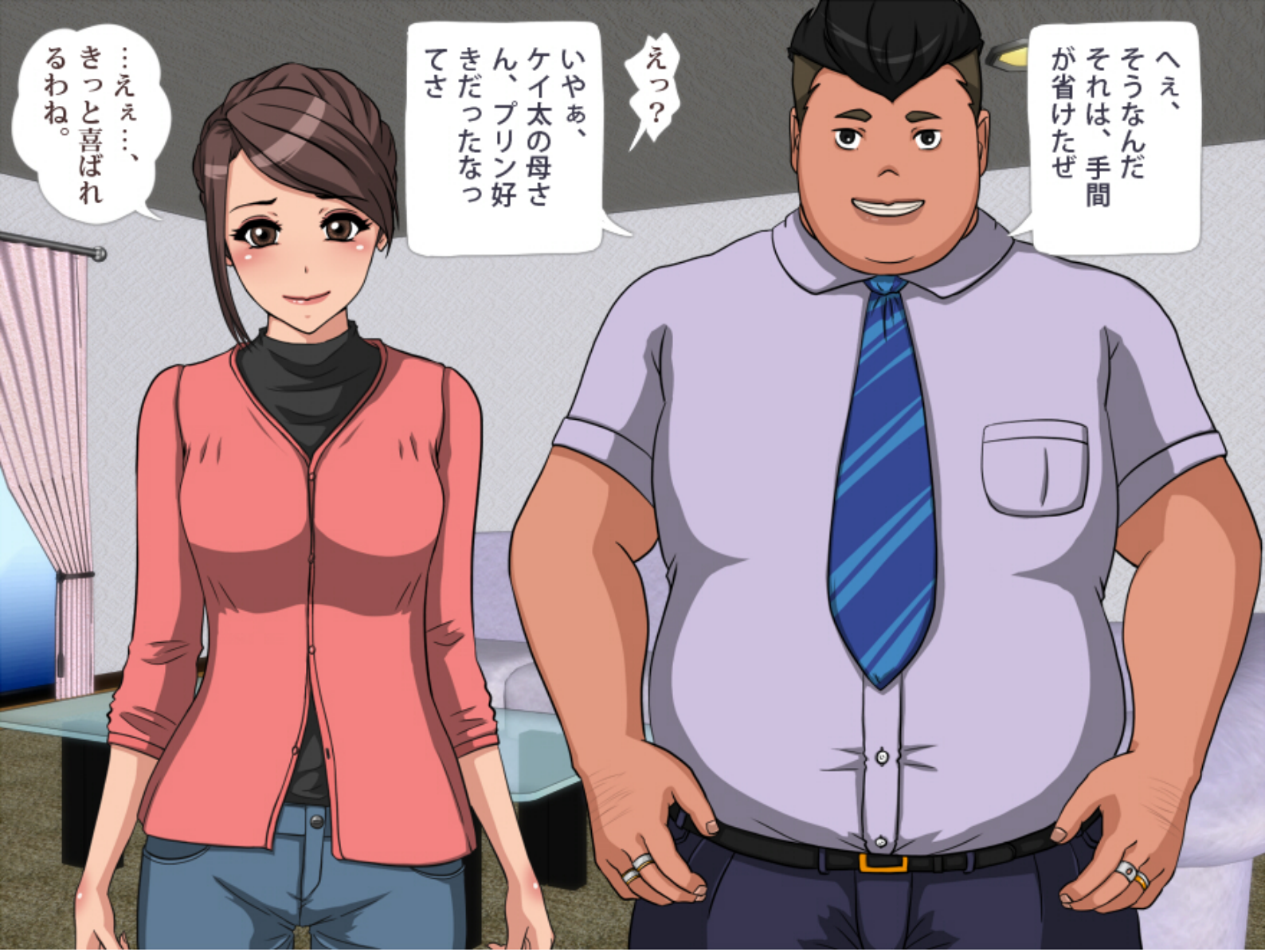


へえ、  
そうなんだ  
それは、手間  
が省けたぜ

えっ？

いやあ、  
ケイ太の母さ  
ん、プリン好  
きだったなっ  
てさ

…ええ…、  
きつと喜ばれ  
るわね。



フミ香ちゃん  
来たわよ！

おばさん、  
ご無沙汰して  
います

あら、  
……ケイ太の  
友達だった！  
クマ雄くん！


尋ねて来たケイ太の母を出迎えるクマ雄。  
久しぶりの再会に驚くケイ太の母と挨拶をすませた頃、フミ香が玄関へとやって来た。



いらっしやい、  
お：お母様、  
さあ、どうぞ

クマ雄君が：  
美味しいプリ  
ンを用意して  
くれましたの  
いっしょに：  
：ご馳走に：  
なりましよう





フミ香への陵辱をゲーム感覚で愉しんでいたクマ雄は、  
2週目の攻略を愉しむため、フミ香へ“おすれん棒”を使い昨日の記憶を消し身体も元に戻していた。  
クマ雄の思惑どおり、ケイ太の母を交えた2週目の攻略が始まろうとしていた……

.END